



…今回は『アサギマダラ』の話です。

移動する生き物について考える。

立冬も過ぎ、気温が低くなってきました。気温が低くなると私たちの周りにいた生き物が急に「種類も、数も」少なくなります。少し前には、あかとんぼが飛んでいる姿を普通に見ていました。あかとんぼは6月末には成虫になりますが、その後7~8月には色が真っ赤でないこともあります、あまり見かけません。8月の末にはかなり見かけることができました。そんなことにも気づかないと、またまた“チョコちゃんに叱られる”かも知れません。

その間どうしているの、言われてみると気になります。…実は暑い時期、あかとんぼは高い山などの涼しい場所に移動して生活しています。夏の終わりに気温が下がってくると平地に降りてきます。

ちょっとした避暑に出かけたようですね… 優雅な生活をしています。

日本に 2500 kmを移動する蝶がいます

季節によって移動する生き物は多くいます。前述のあかとんぼは10~20 kmで時期的なものですがもっと長い距離を移動する蝶がいます。

「アサギマダラ」という名前の蝶です。

アサギマダラは、地上付近ではふわりふわりと優雅に舞うように飛んでいます。私の育った長野県でも時々見かけることができました。9月頃にシシウドの白い花に止まっているアサギマダラもいました。蜜を吸っているところを身近に見ようとすると垂直にゆっくり上昇し森の奥へふわりふわりと飛んでいく姿を見る機会もありました。

(昔昆虫少年・K)



アサギマダラ

生息地域の不思議

1980年代、沖縄で生活をしていた昆虫同好のグループの間で、アサギマダラの個体数の不思議さを感じていました。

① 夏…幼虫や成虫が見られない ② 春は新鮮な個体が見られる ③ 秋…個体数が増え、北から南に移動している鹿児島昆虫同好会から…

① 大きな越冬集団見られないのに、春には個体数が増える ② 春は成虫の北上移動、あきには南下移動が見られる。などの報告があり、これらのことから、アサギマダラのマーキング調査が始まりました。

アサギマダラのマーキング調査

アサギマダラを捕獲して翅の浅葱色の部分に「日付・場所・捕獲者など」の記号を油性ペンで書き込んで放し、再び捕獲された情報を集約するマーキング調査である。こうした調査の結果、春には沖縄・台湾から本州・北海道へ北上することや、秋には北海道・本州から沖縄や台湾まで南下をすることが明らかになり、その移動距離が約 2000 キロを超えるものもあることが分かっている。

「マーキングケース①」2009年 岐阜県下呂市 ⇒ 兵庫県宝塚市 (放蝶者と捕獲者が同じ人であったことが2年連続例も)

「マーキングケース②」2011年 8月19日 北海道 函館市 ⇒ 10月24日 山口県 下関市で捕獲

「マーキングケース③」2011年 10月10日 和歌山県 ⇒ (途中 高知県でも捕獲されている) ⇒ 12月31日 香港で捕獲

2011年 10月10日に和歌山県から放たれて、83日後に約2,500 km離れた香港で捕獲されたアサギマダラは移動途中の高知でも捕獲されていて、世界第二位の長距離の移動が確認されています。

1980年代から全国的に始まった「アサギネット」を通して、アサギマダラの移動経路がわかってきました。数千 km もの距離を旅する蝶、アサギマダラの移動状況調査のため、全国の有志、団体が各地で蝶の翅にマーキングを施し、再捕獲情報を共有。再捕獲情報から移動ルートや時期、移動距離などが判明。マーキングは鹿児島で始まったとされています。1983年には「大阪のアサギマダラを調べる会」が発足し、会誌などでも活動事例が紹介され、徐々に活動が全国に広まりました。



日本から中国への移動が確認されたのは、下記2例があります。移動距離は今までの最長距離になったと思われます。



写真左: 高知県で再捕獲時に撮影
写真提供: 土居敬典
写真中: 香港で再捕獲時に撮影(右前翅)
写真提供: 香港 鳳園蝴蝶保育區
写真右: 香港で再捕獲時に撮影(左前翅)
写真提供: 香港 鳳園蝴蝶保育區

インターネット環境の普及に伴い、各地で行われているマーキングの情報共有や検索が容易になり、近年急速に拡大しているようです。移動に際し、多くが通過する地点もあります。鳥羽市の「神島・答志島・菅島」、国東半島近くの姫島 などには多くのアサギマダラが移動するときがあります。長い距離を移動することで鳥などに捕食される事を心配しますが、捕食されることはほとんどありません。それは体内に毒をもっているからといわれています。毒と言っても誤って食べた鳥が嘔吐(おうと)する程度で、人がさわっても問題はありません。この毒は、幼虫の時に食べるガガイモ科のキジョランの葉や、成虫になって吸うキク科のヒヨドリバナの蜜に含まれるアルカロイドが体内に蓄積されたものとされています。

なぜこのような長距離を移動するのか、どうして方向を間違えなく移動するのかなど詳しいことはよくわかっていません。この不思議を解決するのは、「さいえんす通信」を読んでいる君たちですね。

世界にはもっとすごい蝶がいる

その蝶の名前はオオカバマダラです。



移動の距離は「メキシコ ⇒ カナダ」あるいは「アメリカ国内を移動するグループ」など、いろいろなコースがあるようです。ロッキー山脈から東ではメキシコのミチョアカン州で越冬し、西ではカリフォルニア州の中部から南部で越冬する。10月頃にはこの地域の森林地帯で、木の枝に鈴なり状態となったオオカバマダラがみられます。このような木ではチョウの重みで枝が折れることもあるそうです。



毒のあるチョウはなぜ美しいのか?・・・「警告色」

長距離の渡りをすることで世界的に有名なオオカバマダラは、黒とオレンジ色の美しい色のハネをもっています。このチョウには毒があります。毒は、幼虫時代に食べた植物に含まれる成分が成虫になっても体内にたまったものです。オオカバマダラを食べたことがない鳥が、食物として捕らえ、口にくわえて食べます。しばらくすると、羽毛が逆立ち、吐き気やけいれんに苦しみ、やがて吐き出してしまいます。そういう経験をした鳥は、二度と見向きもしなくなったという報告例があります。鳥は、オオカバマダラを色と模様で認識し、食べてはいけないチョウとして学習し、見向きもしなくなります。チョウにとって、派手な色と模様は、鳥などの天敵に対して、自分が危険であることを示す「警告色」だと考えられています。

(“アサギネット”関連の写真を利用しました)

※園児や初等低学年では、読み解けないことが多数あります。保護者の方が読み聞かせをしたり、お子様がわかるようにお話していただく、などのご協力をしていただけるとありがたいです。

